

第2回木曽川水系流域委員会（現地視察会1日目）

議事要旨

日時:平成19年4月25日(水)16:00~17:00

場所:尾西グリーンプラザ 第2会議室

1. 開 会

2. 議 事

(1) 現地視察会を終えての意見・感想

1日目の現地視察会を終えて、主に次のような意見・感想をいただきました。

- ・この地域の将来像をしっかりとわきまえた上で、治水・利水を議論する必要がある
- ・上下流の相互理解が進まないとありきたりの計画しかできない。ありきたりでない計画を見いだすことが必要。
- ・木曽川の利水は、名古屋圏を考えると都市生活や農業と強く結びついており、将来予測の問題と切り離せず、適切な取水量の判断が難しい。経済の先生などの専門家を含めた議論の場が必要。
- ・利水基準点（今渡）100m³/s、木曽大堰（成戸）50m³/sについては、今も合理的な根拠があるのか、環境の問題も含めて議論が必要。
- ・左岸側が発展している木曽川の状況を踏まえ、連絡導水路、新丸山ダム等をどのようなプライオリティーで整備計画に位置づけるかが課題である。
- ・次回の流域委員会は「利水」がテーマだが、「利水の仕組み」、「農業用水の考え方」について整理し、説明する。

（順不同）

(2) その他

- ・2日目の現地視察会の予定について

3. 閉 会

第2回木曾川水系流域委員会（現地視察会2日目）

議事要旨

日時：平成19年4月26日（木）16:15～17:15

場所：ロワジールホテル大垣 2F

1. 開 会

2. 議 事

（1）現地視察会を終えての意見・感想

2日目の現地視察会を終えて、主に次のような意見を頂きました。

- ・流域計画をつくる上においては、国と県とが連携して行くことが必要。
- ・長良川の中流部（墨俣から上流）の河道対策が必要。
- ・大きな視点でメリハリを付けることも必要。
- ・ダムだけの議論ではなく、遊水地や築堤等いろんなメニューについて地域性、自然環境と連携し、相互に力を発揮できる川づくりを議論する必要がある。
- ・堆砂による既設ダムの治水機能低下については、新たな施設を造るのではなく既存施設の有効活用を図ることの議論が必要。
- ・治水・利水の問題については流域全体の土地利用形態の変化と絡めの議論が必要。
- ・連絡導水路事業が長期に渡る場合においては、水需要の変化（減少）に対するの整理が必要。
- ・ふれあい懇談会の情報を提示する。
- ・利水面を議論する上でフルプランの説明が必要。

（順不同）

（2）その他

- ・3日目の現地視察会の予定について

3. 閉 会

第2回木曾川水系流域委員会（現地視察会3日目）

議事要旨

日時:平成19年4月27日(金)16:00~16:30

場所:輪中の郷 2F コンベンションホール

1. 開 会

2. 議 事

(1) 現地視察会を終えての意見・感想

3日目の現地視察会を終えて、主に次のような意見を頂きました。

- ・まだまだやらなくてはならない箇所あり、厳しい予算の中ではあるが、やるべきことはやって行く必要がある。
- ・伊勢湾台風の水位標が少ない気がする。ゼロメートル地帯に住む住民の方に、自分の住んでいるところの怖さをもっと意識させ、新しい世代の人には伝えることが必要。
- ・木曾川水系の水をどうしていくのかをもっとグローバルな視点で議論して行く必要がある。
- ・本川と支川、内水排除地区のバランスを保った計画を考える必要がある。
- ・過去の水害、治水の歴史を伝え、常に思い出すことが重要である。
- ・整備計画の中で、どういう順番でどういうふうにとやったらいいのか判断するため、予算的な観点も併せて説明して欲しい。

(順不同)

(2) その他

3. 閉会